

## 男子第一部

### 第1回戦

旭化成 B 3 - 0 九州電力

(先鋒) 田中 貴大 3段	⊖	技あり	山本 泰三 3段
(次鋒) 廣瀬 尊 3段		引分	近藤 雅和 3段
(中堅) 角地 信太郎 5段		引分	川野 達也 2段
(副将) 野田 嘉明 4段	⊖	有効	尾本 裕也 5段
(大将) 谷口 徹 3段		合せ技	森 俊介 3段

ダイコク 5 - 0 東レ滋賀

(先鋒) 宮下 和也 3段		小外刈	黒澤 平 3段
(先鋒) 合田 良太 3段		内股	磯 恵司 3段
(中堅) 稲澤 真人 4段	⊖	有効	岡田 建彦 4段
(副将) 稲葉 将太 3段		送襟絞	角 明典 2段
(大将) 佐々田裕良 3段		反則負	河井 修二 2段

新日本製鐵 - 1 京葉ガス  
(代表戦)

(先鋒) 高橋 和彦 4段	⊖	有効	須藤 紘司 4段
(次鋒) 西山 将士 4段		引分	河原 正太 3段
(中堅) 吉永 慎也 4段		引分	中濱 真吾 5段
(副将) 斎藤 俊 3段		引分	花本 龍司 3段
(大将) 落合 幸治 4段		(指導2)	⊖ 紺野 大輔 3段
(代表) 高橋 和彦 4段		払腰	花本 龍司 3段

日本通運	0	-	3	東芝
(先鋒) 森 涉	3段	送襟絞	志村 優太	3段
(次鋒) 北山 剛	4段	両者反則負	久米川弘文	2段
(中堅) 樋口 正人	3段	大外刈	松岡 禎基	3段
(副将) 篠田 盛繼	3段	袖釣込腰	奥井 真也	3段
(大将) 石原 拓	3段	引分	鈴木 盛将	2段

## 第2回戦

総合警備保障	1	-	3	旭化成 B
(先鋒) 法兼 真	4段	大内刈	田中 貴大	3段
(次鋒) 生田 秀和	5段	大外刈	河添 佑	4段
(中堅) 村上 和幸	3段	引分	角地 信太郎	5段
(副将) 有留 秀宜	4段	有効	谷口 徹	3段
(大将) 今井 敏博	3段	小内刈	野田 嘉明	4段

日本中央競馬会	3	-	1	ダイコク
(先鋒) 佐藤 充弘	4段	(指導3)	稲葉 将太	3段
(先鋒) 鈴木 龍	4段	有効	合田 良太	3段
(中堅) 立山 広喜	4段	合せ技	佐々田裕良	3段
(副将) 片淵 慎弥	4段	有効	稲澤 真人	4段
(大将) 山本 宜秀	4段	引分	宮下 和也	3段

了徳寺学園	1	-	3	新日本製鐵
(先鋒) 平田 侑城	3段	有効	西山 将士	4段
(次鋒) 森本 翔太	3段	(指導2)	高橋 和彦	4段
(中堅) 石井 孝法	4段	合せ技	森田 祥一	4段
(副将) 中野 竜	3段	有効	斎藤 俊	3段
(大将) 西村 久毅	3段	引分	吉永 慎也	4段

旭化成 A                    2                    -                    0                    東芝

(先鋒) 増淵 樹	3 段	⊖	有効	志村 優太	3 段
(次鋒) 大鋸 新	5 段		引分	松岡 禎基	3 段
(中堅) 松山 毅	4 段		引分	久米川弘文	2 段
(副将) 高井 洋平	4 段		大内刈	鈴木 盛将	2 段
(大将) 木村 純	3 段		引分	奥井 真也	3 段

### 準決勝戦第 1 試合

旭化成 B                    1                    -                    日本中央競馬会  
(代表戦)

(先鋒) 田中 貴大	3 段	裏投	片淵 慎弥	4 段
(次鋒) 出口 雄樹	3 段	引分	佐藤 充弘	4 段
(中堅) 角地 信太郎	5 段	小外刈	立山 広喜	4 段
(副将) 野田 嘉明	3 段	引分	山本 宜秀	4 段
(大将) 谷口 徹	3 段	引分	鈴木 龍	4 段
(代表) 野田 嘉明	3 段	合せ技	立山 広喜	4 段

先鋒戦。片淵が開始早々から積極的に前に出る。体重で劣る田中は守勢に回る。ところが 1 分 5 1 秒、片淵が田中の左腕を抱えて捨身の左小内刈に攻め込んだところを、田中はブリッジで身体を反りながら、片淵の左の刈足を右手で抱え込み、左肩越しに放り投げると、片淵は頭から大きく円弧を描き、畳を背負う。田中、見事な返し技で一本。まさかの結果を容易に受け入れられない片淵は、暫し呆然と畳に立ち尽くす。

次鋒戦。体重で圧倒する佐藤は、挽回せんと、右奥襟を取って出口に圧力を掛けるも、出口は動き良くこれをいなして五分に渡り合う。後半ややスタミナが途切れた佐藤に、出口は大外刈、内股と攻め返すが決めるには至らず。技の応酬は見られるも、共に相手を崩すに至らず引分。

中堅戦。50kg 重い立山は、角地を上から押え付ける。角地は組んでは勝負にならないと見て、離れてチャンスを窺う。しかし、立山は開始 5 3 秒に右と

見せて、角地の踏み出した右足に左小外刈から浴びせ倒して、技ありを奪う。その後も立山は手力任せに角地を翻弄する。そして2分17秒には、角地を追い込みながら再び左足を右へ行くと見せて、そのまま左から角地の右半身を刈り取るように浴びせ倒して一本を奪う。日本中央競馬会がタイに持ち込む。

副将戦。ケンカ組み手。引き手争いの中、山本は左内股で再三再四、野田を浮かせるも引き手不十分なため効なし。野田も積極的に組みに行き体落を狙うが、山本の素早い動きに攻め手を欠いて引分。

大将戦。中量級、左組みの谷口は、右組みの鈴木を何とか捉えようと激しく動き、勝機を探るが、鈴木は体重を持て余し、攻撃は空回りする。対する鈴木も谷口の動きに翻弄されて攻めの機会を得られず、引分。

代表戦。ケンカ組み手、野田は自分の組み手になって、背負投、体落を狙うが、余りもの体格差に技が通じず。一方の立山は、左手で野田の奥襟を上から押え、右引手はやむなく前襟を掴む。不十分な組み手ながらも、立山は1分53秒、野田を場外へ追い込んでから払腰一閃。野田は大きく宙を舞いながら身体を捻って一本負を回避し、辛うじて体側から着地して、技ありに持ち込む。その後、立山は更に攻勢に出て、野田は守勢を強める。こうして迎えた2分55秒、立山は支釣込足を残して伏せた野田に寝技で襲い掛かり、肘を極めながら裏返して上四方固に押さえ込む。20秒経過し一本。立山、日本中央競馬会を決勝戦に導く。

## 準決勝戦第2試合

新日本製鐵 0 - 1 旭化成A

(先鋒)	西山 将士	4段	引分	齋藤 制剛	4段
(次鋒)	森田 祥一	4段	引分	高井 洋平	4段
(中堅)	齋藤 俊	3段	引分	松山 毅	4段
(副将)	高橋 和彦	4段	上四方固	木村 純	3段
(大将)	吉永 慎也	4段	引分	泉 浩	4段

先鋒戦。西山左、齋藤右のケンカ組み手。激しい組み手争いから、互いに組み

際に勝機を見出そうとするが決め手なく、齋藤はタックルや肩車等で西山を寝技に誘うも、西山は防御に徹して勝負を挑まず。齋藤は立ち技に見るべき攻めなく、西山は無理をせず、時間が経過して引分。

次鋒戦。大型選手同士、左組みで両者対峙するが、共に技が出ず1分24秒に双方指導。高井は大内刈、内股を見せるが、今大会は精彩を欠き、森田を崩すには至らない。森田は時折、支釣込足等足技を放つが、高井は全く動ぜず。攻めが途切れた3分24秒に両者に指導2が与えられて、そのまま引分。

中堅戦。齋藤より50kg重い松山は、右手で奥襟を掴み、支釣込足で齋藤を振ろうとするが、齋藤も姿勢良くこれを受け流し、大内刈等で対抗して一步も譲らず。1分49秒の両者指導に続き、技の出ない二人に3分20秒、再び指導。終盤は齋藤が奥襟を取って大外刈で攻めるが、松山もよく受けて引分。

副将戦。紅のポイントゲッターと目される高橋は、右組みの木村に対し、積極的に右引手を取りに行き、左から払腰を連発するが、木村はこれを見切り難なく防ぐ。木村の内股も大きな高橋には通ぜず。両者動きの止まった1分32秒に、共に指導を受ける。中盤は両者互いに内股、払腰で攻め合うが効果なく過ぎる。ところが、残り35秒に高橋は払腰と見せて小外掛に行くところ、木村がこれを大内刈に切返せば、バランスを崩した高橋は尻から落ちて、有効の宣告。上になった木村は、そのまま四方固に押え込み、旭化成A均衡を破る貴重な1点を挙げる。

大将戦。吉永右、泉左のケンカ組み手の対戦。後がない吉永は、タックル、巴投から寝技に入ろうと必死に攻めるが、泉は余裕をもって捌く。共に腰を引き、低い姿勢で相手を窺う両者に2分23秒、指導。その後も吉永がタックルで活路を見出そうとするが、泉は難なくこれを捌く。1点リードの泉は無理をせず、引分ける。

## 決勝戦

日本中央競馬会 1 - 0 旭化成 A

(先鋒)	山本 宜秀	4 段	引分	大鋸 新	5 段
(次鋒)	佐藤 充弘	4 段	内股すかし	高井 洋平	4 段
(中堅)	片淵 慎弥	4 段	引分	泉 浩	4 段
(副将)	立山 広喜	4 段	引分	齋藤 制剛	4 段
(大将)	鈴木 龍	4 段	引分	木村 純	3 段

先鋒戦。両者の体重差 50 kg、大鋸は奥衿を持って攻めるが、姿勢の良い山本は崩れず。山本は劣勢ながらも、時折背負投や巴投で攻めをアピールして指導を回避。引分。

次鋒戦。左右のケンカ組み手。高井は引き手を取れず、襟を持って左大内刈、左内股で攻める。高井を上回る体躯の佐藤は、再三ぐらつきながらも良くこれをしのぐ。ところが 3 分 15 秒、高井が引き手で前襟を握り、釣手を佐藤の右腕の付け根の辺りを握って、大内刈から内股に変化したところを佐藤が見事に透かして一本。佐藤思わずガッツポーズ。

中堅戦。左組み同士の両者は自らの組み手に拘り、なかなか組合えないまま試合が進む。泉は組み際カウンター気味に体落、一本背負投等を仕掛けるが、片淵もよく見極めてこれを防ぐ。泉が優勢に進めながら決め手を欠き、引分。

副将戦。巨漢立山、齋藤との体重差は 60 kg。齋藤は果敢に内股で攻めるが立山には通じず。中盤、両者に指導がなされて間もなく、齋藤の肩車が空を切り、齋藤が伏せたところを立山が横四方固で一旦押え込むが、齋藤は執念を見せ 12 秒で逃れる。日本中央競馬会 1 点リードのまま引分ける。

大将戦。右組み同士の戦いは、リードを許している旭化成 A の木村が積極的に出る。しかし、鈴木はガードを固めて、木村に攻撃の糸口を与えず、逆に時折右小内刈で木村を揺さぶる。結局、木村は最後まで鈴木を攻め切れず、鈴木はきっちりリードを守って引分け日本中央競馬会の 15 年ぶり、2 度目の優勝が決定する。